

保育心理士公開講座

岐阜県民間保育連盟

- ・ 日にち 平成 27 年 9 月 19 日
- ・ 場所 ふれあい福寿会館
- ・ 講師 薙山 英順先生
- ・ テーマ 発達心理学 I ・ II

自閉症の症状形成過程

乳児期前半・後半

問題行動の現われとして、おとなしい育てやすい赤ちゃんは安全基地としての愛着対象を形成することやコミュニケーションへの関心がないので、この時期には充分に働きかけることが大切である。

1歳前半・後半

自閉症の症状の顕在化として

- ・ 対人的無関心 コミュニケーションの障害（視線が合わない）
- ・ こだわりが強い
- ・ 言語発達遅滞やオウムがえしが見られる

※ 行動異常が顕在化し始める

2歳半

協調姿勢、協調運動の不器用さが伺われる。症状の固定化と改善過程の始まり

- ・ 自閉症に特徴的な対人的反応・コミュニケーションの障害の多様な現われが出てくる
- ・ 自閉的行動異常の多様な現われが出てくる
- ・ 自閉症に特徴的な言語・認知の発達的偏りと異常・・・改善過程の始まり

※ 診断が確定し、治療や療育が開始される・・・発達段階の改善・症状の軽減

自閉症児の症状改善過程

情意系

対人的関心・・・・愛着対象の欠如・呼んでも振り返らない・視線回避・情緒的交流が乏しい

感覚運動系

自閉的行動異常・・常同行動・同一性保持要求・衝動的飛び出し・多動・注意集中障害

音声言語系

言語遅滞と異常・・常道的音声・言語理解と表現の遅れ・音声への無関心と音声表現欠如

症状として、自閉症状の典型的現れで主要三症状である

言葉・・・・イメージ・概念ができないので、りんごを伝えたい時は、絵本・本物・赤いなど、具体的に伝える。

見立て遊びができるようになると、イメージができ言葉が発達する。ごっこ遊びなどは社会的役割行動ができるようになる。大人との関係が出来ないので、子どもとの関係もできない。又、お母さんや大人との関係が充分でないと子どもへの関心も示さない。良きモデルになること（まわりの子どもたちも）が大切である。

人との関係づくりが発達してくると、結果・こだわり・言語の遅れ・過剰過敏も收まつてくる。

人間関係・・自閉症児は人への気持ちを伝えることを必要としないので、発達するには人を必要とするようにしていかなくてはいけない。人を必要としないと表情が能面のような表情である。表情がなくておとなしい乳児は問題がある。経験は人との関係の中で生まれていく。

触覚過敏・・繊維の刺激が苦痛である。同じ服しか着ない。このようなことは、乳児時代から特異な反応を示すのでわかる。

聴覚過敏・・音や人の声・騒がしいところ（子どもの声）など、行動として耳をふさぎ、落ち着かなくなる特徴がみられるが、人間関係やコミュニケーションを改善する（その音がどう感じるか認知する）と直ることがある。かかわり次第で自閉症にならなくて済むかもしれない（早期の経験・・良い乳児保育を受ける）

ダウン症・・知的障害児とは限らない。何もせずに寝転んでいる子が多い。特徴として筋肉が弱いので、ハイハイや立つのが遅い。物をつかむ（リーチング）ことが苦手である。筋肉が弱いと失敗が多くなるので、だんだんいろいろなことをやらなくなってくる。ダウン症は知的な面をまわりの環境や活動や経験を意識して接していくと防げるのでは、おとなしい子には、保育士は目をかけることが大切である。脳の発育も遅いので、特におとなしい赤ちゃんはほかっているとますます成長が遅くなる。

保育心理士に大切なことはその子の独自性を大切に本心や援助をよく考え、常に向き合っていくことが大切である。グレーゾーン・健常児・障害児、どの子も平等な質の良い、保育を受ける権利がある。子どもはよく大人の心をみている。子どもはやさしいねと保育士が誰かを誉めると、他の子も競って先生に誉められようとやさしくしようとする。自分で靴をはきたいと思っている子に、誉められたい一心でよけいなおせっかいをしてしまう。靴を自分で履こうとしていた子がどうゆう思いを持っているかを見るのが、本当のやさしさである。本当のやさしさを育てることが大切である。子どもが何を求めているのか、子どもが言葉で言わなくても、わかることが心理学の大切な所である。「だいじょうぶ」という子ほど大丈夫ではない。大人はその言葉を信じてしまうことは大間違いである。理解するには、専門的なことを学んで、知つてもらうことが必要である。

保育心理士公開講座

日 時 10月31日(土) 13時30分~16時20分
場 所 ふれあい福寿会館
講 師 子どもと保育研究所 ぶろほ 山田 真理子先生

後半の記録

一人称で書くことはその子の気持ちになってその子の視点をとる。

その子は何があると安心、クールダウンできるかを伝えるためには一人称は大切。

(困っていること)

主訴・・・子どもが困っていること、訴えていることを書く。

子どもの代わりに先生が書く。

保育者が困っていることを書くのではない。

その子は何が辛い、落ち着かない気持ちなのかを主訴のところに書く。

※集中力が持続しない→(ADHD) 注意欠如の状態がある子はいろいろな物が目に入る。

部屋にひらひら、きらきら、ゆらゆらした物があったらはずす。

原色・・・黄色、青、緑、つるつるした紙

先生がしゃべっている時は子どもの目から見て、先生の頭の上に掲示してあるものを外す。

一年間の誕生表が掲示してあるのはよくない。集中して先生の顔を見て話がきけない。

プールの時期は、プールバッグが透明でキラキラして光る。水着はカラフル。カーテンで覆うと良いが、カーテンは無地がよい。(子どもが喜ぶからといって車やキャラクターはよくない。)

このようなことから明日からの保育を変えられるのは先生である。

「一人称で書き換えてみよう」

資料①事例

保育士が判断している

Aくんは集中力が持続せず、気が散りやすい。基本的な生活習慣は一人でできるが乱雑。

夕方の居残り保育の時に、廃材で制作をする時も説明を聞いても手順がわからずに困っている。保育士や友達の様子を見て模倣するのも難しい。

手先の作業に苦手意識があり、「わからん」「できん」と言って、なかなか自分でしようとしない。「変なのになるけん先生作って」と言ってくるので、できないのではなく失敗がいやなのかも知れないと思ったが、出来上がりを見ると5歳児にしては雑だった。

友だちの作ったものを通りすがりに壊したり、勝手にとったりして言い合いになっているので理由を尋ねると「〇〇ちゃんが叩いたもん」「〇〇ちゃんが仲間に入れてくれへん」と泣きながら訴えてくるが、相手の言い分を聞いてみると横を通った時にちょっと手が触れた程度であったり、Aくんが仲間に入れてくれないとAくんの思い込みによるトラブルが多い。

会話の途中で関係のないことを話し始めたり、しりとりやクイズなどの返答が的外れなことが多いが、全く気にせず何度も手を挙げて場にそぐわない発言を繰り返す。その場の雰囲気を感じての状況判断ができず、表情から相手の気持ちを考えることも苦手である。

<一人称>

ボクは、

資料②エピソード

（一人称に書き直してみよう） R：4歳5ヶ月

私（担任）が絵本を持ってクラスに戻ると、子どもたちはそのことに気づき、私のまわりに集まりました。「先生、その本なんねー？」と聞くので「とーてもどきどきするお話」などと子どもたちと会話を楽しむ。そのうちに子どもたちが私のまわりに集まり、始まるのをまだかまだかと待っている。

Rくんは友だちが集まり、絵本がはじまることを分かっているようで、チラチラとこちらを見ているが、近づこうとしない。「Rくんも一緒に見よう？」と誘うが、隠れてしまう。

絵本を読み始めるとRくんはまた顔を出し、絵本の方へやってきた。しかし、絵本の目の前に立ってみたり、絵本をめくろうとするので、まわりの子どもたちから「もう！Rくん見えん！」「すわってよー！」等と注意の声が次々に飛び交い、Rくんは私の後ろに隠れてしまう。

私も子どもたちと同じように「Rくんお友だちが見えないから座ってくれる？」「座るのが嫌だったら、お友達の後ろで見ようか」と声を掛けるが、Rくんにそうする様子は見られない。

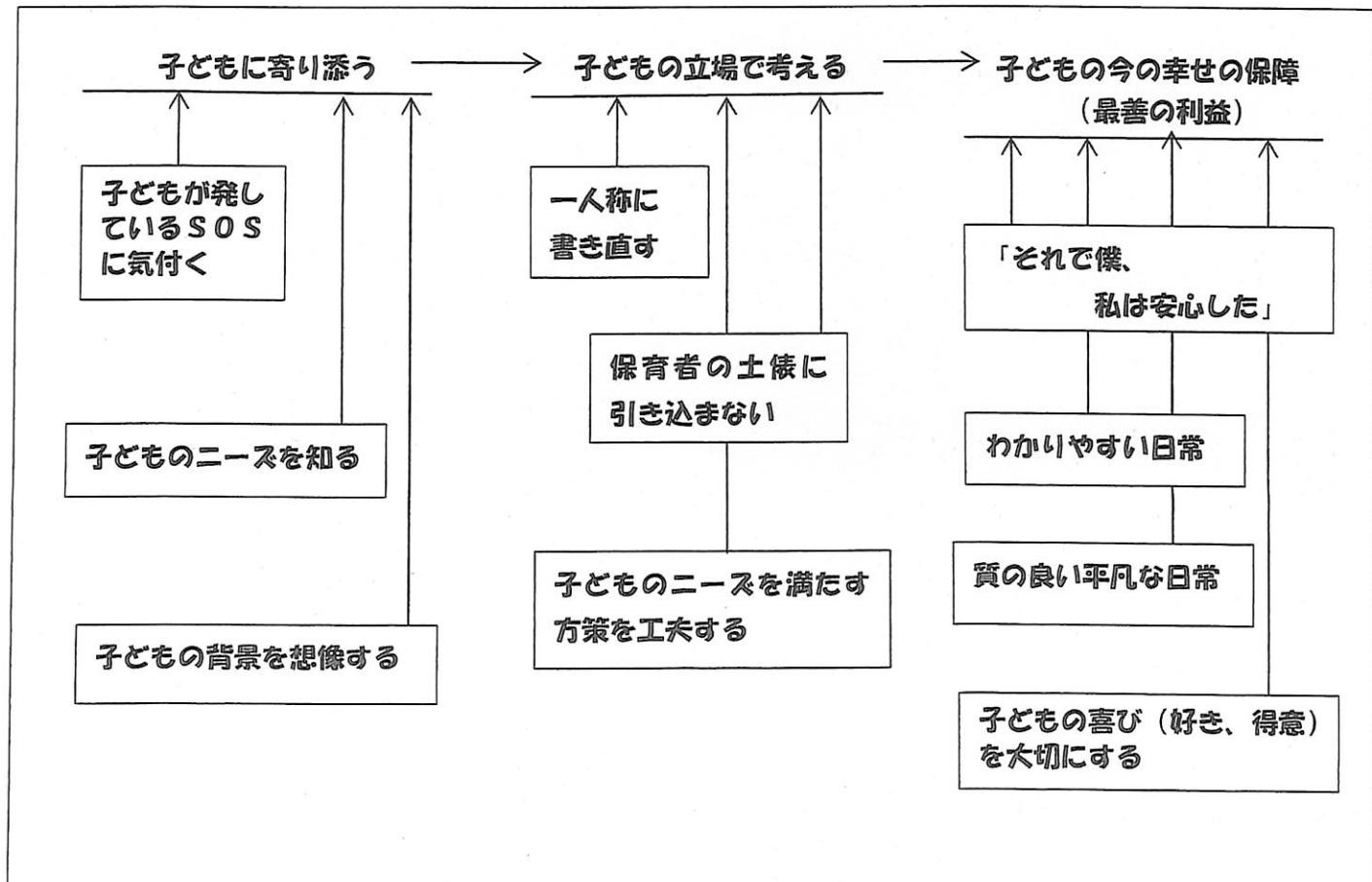
その後、Rくんには椅子に座ってもらうよう準備するが、椅子をがたがたと動かし始め、「お友達と手を繋いでみようか」と声を掛けてもそっぽを向かれるので、無理矢理に座らせてしまうことになった。

座ってしまうと指しゃぶりをしながら絵本に目を向ける。絵本が終わるとまた立ち上がり、素早く別の場所に行ってしまった

<Rの一人称で>

置き換えて書くと「～で、先生がこうこうこうしてくれると安心なのにな。」で終わる。

二つの資料に基づき、一人称にし、6人グループになり、一人称にした文章をそれぞれ発表した。



※子どもに寄り添うとは子どもが発しているSOSに気づく

友達をたたく子は決して満足していない。満たされていない。安心できていない。

安心して満たされている子は理由もなく友達をたたいたりしない。叩いたことだけを怒るのではなくその子が叩くということで発しているSOSはなんだろうと気づいてあげる。

※子どものニーズを知る。

噛みつく子は噛みつくことが必要である。

狭いところに入る込む子は狭いところに入り込むことが必要な子

ぎゅーっと引っぱる子はぎゅーっと引っぱることが必要な子である。

引っぱりやすいもの、引っ張ってその子が満足するものを見つけてやるのが先生の役割である。

※子どもの背景を想像する。

その子が非常に落ち着かない子である。家庭生活が安定した両親のもとで暮らしている子と。両親が離婚をして新しい彼氏ができたという環境では、全然その子の置かれている状況が違う。

その子の背景がどれだけ影響しているかということも考える。こういうことをきちんと把握する専門性も必要である。

※具体的に子どもの立場で考えることは

一人称に書き換える。園に帰って問題のあるエピソードが出たびに一人称に書き換えると良い。自分だけでなくいろいろな人が書き換えることによって書くことが違うので、違うことからお互い学び合える。

保育者の土俵に引き込まない。保育者の下心で引っ張らない。

※子どものニーズを知ったら子どものニーズを満たす方策を工夫するのが子どもの立場で考えることである。何回も何回も噛みつかせていることは満たす方法を考えていない。噛みついでいいものを与えていないから何回も噛みつく。子どもの立場で考えたら今までやってきたことが違う。

子どもの立場で考えるということを共有できる保育者集団を自分の保育園に作る。それを作るには一人称ワークをやることは役に立つ。

※子どもの今の幸せは保育者の役割である。

最善の利益とはその子は安心するかどうか？安心して始めてその子の力が發揮できるしその子のいろいろな学習ができる。安心しないところでピクピクして、いろいろなことが学べるはずはない。

まず、安心できるような関わりをする。

※分かりやすい日常、分かりやすい言葉にする。

一番子どもが安心するのは、質の良い平凡な毎日が繰り返されること。毎日同じローテーションで繰り返されることが子どもは安心でき、時々イベントがあると楽しい。

今日何があるのか分からぬでは、子ども達は不安になる。子どもの喜びを再確認する。

*スモールステップを考える。

障がい、グレーゾーンの子に対して必ず最初はできること、好きなことから始める。

安心できないと緊張に自分のエネルギーを取られてしまい、使えるエネルギーは半分になってしまふ。

安心して使えるエネルギーを100%、120%使える状態で楽しい事、好きなことをやりながら、それができたという勢いで、これもできてしまうかもしれないと思める。

必ず好きなこと、得意なことからスタートする。それをより早くより誰かと一緒により贅沢によりきれいにやっていくと、その子の力はいくらでも伸びていく。

必ず、その子の好きなこと見つけること。色、匂いなど何でもよい。

特に衝動性の強い子は、その子の好きな匂い、好きな手触りを知っているとその子の衝動をクールダウンさせることができ役に立つ。衝動がカッとなった時には、見るもの聞くものではダメである。匂い手触りとか、原始感覚的なものでないと落ち着かない。その子が安心できるようなものを用意しておく。

10/31 (土)

公開講座

保育心理演習I

○噛みつきが多い子には、噛みつきする物を与えてあげる。

①場面に出合った時、どのよう応答をゆうか (先生目線)



②(子ども目線)一人称に書き換えてみる



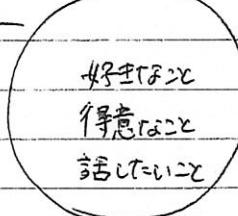
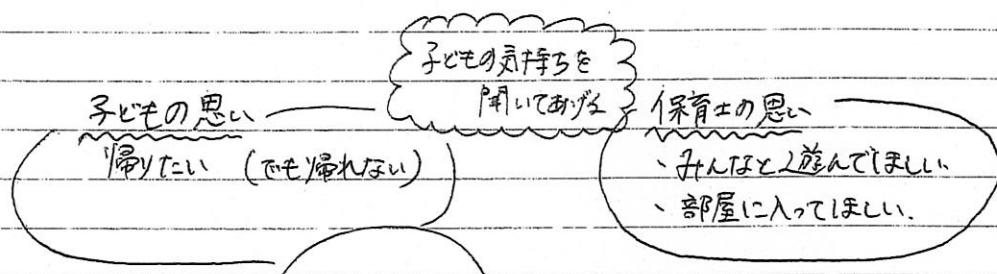
③書き換えた文に文末の文を付加えて、最後に「それでボクは安心しました」と出されれば①。



グループで伝え合う。1人ひとりの先生目線、子ども目線の考え方が違う。



子ども目線で、「どう先生に言つてもらつたら嬉しいか」を考えてみる。



子どもの世界に寄り添う。

保育士の都合に(人)はまるX

研修報告書

平成 28 年 1 月 23 日(土)

記録 大島香澄

テーマ

「気になる子どもへの対応」

講師

西濃圏域発達障がい療育支援センター専門支援員

中野たみ子先生

◎ 保育士から見て「気になる子」とは? ※気になる子→困っている子と置き換える。

- ・発達の遅れや弱さがある。
- ・ボーっとしていることがある。
- ・場面の切り替えが出来ず、みんなと同じペースで行動できない。
- ・みんなと遊べない。
- ・集団からはみ出てやりたくないことはしない。
- ・かんしゃくがひどく泣き叫ぶ。
- ・いつも友達とトラブルになる。
- ・乱暴、暴言が目立つ。
- ・いつも汚れた服装をしている。
- ・おどおどした態度。
- ・家では話すというが園では話をしない。
- ・ことばが不明瞭だったり言っていることが分からない。

園の中で困る子→集団の中での適応ができない。

一斉に動く時に動いてくれない子。

- ・「気になる子」が全て発達障がいではない。
- ・ネグレクトや虐待が子どもの発達に及ぼす影響は大きい。

☆ 全体に発達が遅くなっている。(1歳半健診、3歳児健診からでも伺える)

◎ 子どもの発達を妨げている要因

- ・家庭や地域、環境の変化(言葉の刺激が少ない 異年齢で遊ぶことが少ない)
- ・文化的な生活(蛇口を回さなくとも水が出る等、便利で文化的な生活スタイル)
- ・紙おむつの普及(「気持ちが悪い。」と感じにくいサラサラ紙おむつ)

※子どもの発達は「快」「不快」から発達していく。

- ・スマホやゲームに没頭する大人達(母親と子どもの関係が希薄になっている)

※0歳児は脳の可塑性が高く脳のネットワークを作る一番大切な時期である

刺激がないとネットワークをつなげていくことが出来ない。

どんどん言葉をかけ、スキンシップをとることが大切である。

◎ 子どもの状態は「症状」なのか? 「反応」なのか?

- ・症状→いつでも、どこでも。
- ・反応→ある条件の下で起こる。※見極めが大切である。

◎ 乳幼児期の発達の弱さの気づき

- ・乳幼児期の発達の様子をよく観察し、関わりを出来るだけ作っていく。
(言葉かけ、くすぐり遊び、いなないないばあ)
- ・園生活の中で保育士が発達の弱さに気づいた時は、全てに理由があると考える

◎ 幼児期の支援 ☆一番気づきやすい時期

子どもは「個」と「環境」との相互作用の中で育つ。

〈保育園・幼稚園での支援〉

- ① 保育室の環境作り→先生に注目しやすい。余分な刺激が多過ぎない室内。
- ② クラス目標を明確に→スケジュールが分かる。予測がつきやすい工夫。
- ③ 保育士の技量→子どもと共に遊ぶ力。言葉のかけ方(肯定的、具体的、子ども
の気持ちに立った言葉かけ)
- ④ 個別支援→加配をつければいいのではない。子どもは集団の中で育っていく。
保育者と1対1の関係性の中で完結させない。支援の手は引き算で。
- ⑤ 個別支援計画の作成と支援の引き継ぎ→子どもの実態把握→具体的に目標設定
※具体的でないと評価ができない。

例 「コミュニケーションを育てる。」?

要求を動作で出せるようになる。

要求を音声で出せるようになる。

「やって。」「ちょうどい。」が言えるようになる。

その為にどのように支援するか→支援の方法を次の担任に引き継ぐ。

[具体的支援] →まず、その原因を探るところから始まる。

○言語指示が通らない。

・具体的な言葉で言えばわかるか。短期記憶の弱さがあるか。不注意であるか。

※クラス全体を静かな状態にし注目させてから話す。

※「3つ言います。」など予測しやすい言葉かけをする。

※集団プラス個別の声かけをする。

※できるだけ具体的に。

※聞く時と話す時を明確に示す。

○新しいことが苦手な子。

・予測がつかないことは不安になるか。経験不足か。

※見学する。

※予測できるように順番を知らせていく。

※家庭と協力し合って前もって経験させておく。

○乱暴・暴言・キレる。

- ・いつ、どんな時、誰に？要因となった言葉、友達、先生の行動はなかったか。
- ・自分の気持ちが伝えられないのではないか。自分でできない時ではないか。

※まずは本人の気持ちを言語化する。「いやだったね。」「辛かったね。」

※保育者の声は低いトーンで。高い声は子どもをハイテンションにする。

○先生の話している間に勝手に喋る。(ADHD かもしれない)

- ・自分ではコントロールが効かない？
- ・自然に口が動く？

※ずっと我慢するのは無理なので短時間から。我慢ができたら褒める。

※「今、何する時？」本人に気付かせる。気付いたことを褒める。

※周りから順に褒めることで気付かせる。

※誰に、どんな場面で、何時に、天候は？体温調節がうまくできない？(湿度)などを、把握する。

○忘れ物が多い、身の回りのことが出来ない。時間がかかる。

- ・不注意？他のことに気が散る？
- ・家庭では何でもやってもらっている？

※家庭と連絡袋などを使って徹底させる。

○勝手に部屋から出て行ってしまう。いつまでも自分のやりたいことをやっている。

- ・気持ちの切り替えが難しい。
- ・今までそうしてきた。わがまま？
- ・その子中心に世界が動いている？

※クラスのルールを作る。座っていなければいけない時間を短くする。

※集中が途切れたら全体で背伸びをするとか、対象児に何か手伝わせる。

※誤学習の危険性→「好きなことだけしていればいい。」などは誤学習を引き起こすので家庭での規則正しい生活が大事である。

※医療との連携→発達障がいは病気ではない。投薬は気持ちのコントロールを助ける為のものでそこに教育がなかつたら行動面での改善は望めない。

〈幼児期、家庭で気をつけること〉

○基本的な生活習慣の自立。

- ・将来の自立に役立つような力。 「片付けること。」を習慣化させる。
- ・自分のボディイメージが持てる。

○コミュニケーションの力→母子の関係の中での言葉のやり取り。

○体作り→体のバランス、協調動作。(ボディイメージ、視覚機能など)
体の中心を作ることが大切である。

○待つ力、我慢する力→家庭の中でのルールがある事、「好きな事をここで切り上げる。」という気持の切り替えを育てていく。

○小学校へのつなぎの大切さ。

- ・子どものいいところと苦手なところを伝える。今までやってきた支援を伝える

※こんな方法だと落ち着く等、具体的に伝える。(言葉? 視覚? 身体を動かす?

順を追ってか? 結論からか?)

○障がいをもつ子の保護者支援。

- ・保護者は頑張って育てているということをまず理解したい。

・保護者は子どもの障がいがある時は受容、ある時は否定しながら子どもを育てている。その揺れる気持ちも受け止めたい。

・自分の子どもの実態把握には時間がかかるものであって、理解のない親だと決めつけない。

・保護者と一緒に子育てをしていく気持ちが大事。

① 知識だけ知っている専門家はいらないのであって、保護者の気持ちに寄り添い、悩みを聞き、時には一緒に考え、アドバイスしていくける保育者に!

② まず、人として豊かな人間になる事、どんな職業でもそこが一番大事であり、難しいこともある。

※若い保育者→「わからない。」のではなく、自分なりに考える。

自分の精一杯を伝える。「一緒に考えていきたいです。」など。